らき☆すた～忘れられない青春～

深螺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
らき☆すた～忘れられない青春～

【Ｎコード】
Ｎ９１３５Ｖ

【作者名】
深螺

【あらすじ】
俺は絶対忘れない。
彼女たちと過ごした青春を。

ぷろろ〜ぐ？（前書き）

二作目なんですが、一作目がまだ1話しかかけてないんで文章が下手かもしれません。許してね？

ぷろろ～ぐ？

ー俺は、あの最高の高校生活を絶対忘れはしないだろう。
彼女たちと過ごした、あの３年間をー

「う～ん、もう朝か…今何時？」
そう呟きながら携帯の時計を見ると７：３０と表示されていた。
「なんだ、７：３０か…ってこのままじゃ遅刻じゃねーか！！！」
そう、今日は陵桜学園高等部の入学式である。
ーそして、入学式は８：２０から、俺があの学校につくまでにかかる時間は４５分ー
「まずいまずいまずい！」
そういいながら急いで着替えをすませ必要な荷物を持ちダッシュで家を出る。
もちろん、パンはくわえている。飯は今ゆっくり食ってる場合じゃねえ！
「行ってきま～す！！！」
家を出るときそう大声で叫んだ。
ー誰もいない家にー
「はぁ、はぁ、はぁ…これなら間に合うか？」
次に角を曲がれば駅に着く。バスが出るまで時間はまだ１０分ある。
そして角を曲がると…
ドッカーン
この擬音がすげぇ似合う勢いで誰かとぶつかった。いったい誰だ？
そう思い立ち上がりながら前を見てみるも、誰もいない。あれ？
「ちょっと、下だよ下！」
なんか下の方から声が聞こえた。なので下を見ると…
ーすっげえちっこい女の子がいたー
続く

ぷろろ〜ぐ？（後書き）

はい、プロローグなのかよくわからない感じでしたね。
主人公の名前が出てないのはなぜでしょうか？
深い意味なぞありません。はい、決まってないだけです。
感想を書いてくれるとありがたいです。
ついでにヘタレハーレム野郎（予定）の名前も考えてください。
感想のとこに書いてください。お願いします！！！！！

第1話（前書き）

前回のあらすじ＝前回読んで。
すいません、サブタイを考えられませんでした。

第1話

俺はぶつかったその子を改めてみた。
腰まで届く青い髪
頭からピョンとはねているアホ毛
そして、小学生のような身長（俺も中二から身長伸びてはいないんだが）
つまり―ガキである
「ねえ、ちょっと今失礼なこと考えてなかった？」
「うっ」
「やっぱりー！私はこれでも高校生だー！」
まじかよ・・・つかなんで考えてることがばれたんだ？
謎だ…
「…ってしまった！」
「にゃ！？どうしたの？」
「このままじゃバスに遅れる！」
「あ、私もこのままじゃまずい！って痛！？」
「どうした？」
「あ、足くじいちゃったみたいで…」
どうやらさっきぶつかったときに足を挫いたらしい。
「…しかたねえよな…」
「？どったの？ってきゃあ！」
彼女が驚いたのも無理はない。
何故なら俺は彼女を所謂≪お姫様抱っこ≫していたからだ。
そして脇目も振らずにそのまま走り出したのだった―
続く

第1話（後書き）

すいませんまだ主人公の名前が考えられません。
誰かお願いします。
あと少なめでした。
すいません

第2話　青い少女、その名はこなた（前書き）

主人公の名前決まりました。
風間（かざま）ひろき　です。
ガイアードさん、ありがとうございました。
あなたの作品応援してます。

第2話　青い少女、その名はこなた

ぶつかった少女がどうやら足を挫いてしまったようなので俺は彼女を所謂≪お姫様抱っこ≫で抱えバス停まで走っていった。周りの目は見なかった。…いや、見たくなかった…
まぁ、そういうふうに（どういうふうだ）してバス停までついて何とかギリギリでバスに乗れた俺たちは座席に座り落ち着くと彼女が話を始めた。
「ねえ、君」
「な、なんでしょうか？」
彼女は怒っているみたいだ。当然だが。
「バスに間に合わせてくれたのは嬉しいけどさ、いきなりお姫様抱っこはないんじゃないかな？周りの人たちの目、見た？」
「いや…」
「なんか微笑ましいものを見る目だったよ！？どうしてくれるの！？」
「すいません…癖でやっちゃいました…」
「癖って…まぁいいや。もう過ぎちゃったことだしね。それより君、名前は？私は泉こなた」
「ああはい、俺は風間ひろき、今日から陵桜の一年です。」
「ああ～じゃあ同学年だね」
「へ？」
「いや～私も今日から陵桜の一年なのだよ！」
「…いや、だってあなたさっき高校生だって…」
「うん、だから今日から」
「そんなんあり！？」
てっきり先輩かと思っちまったじゃねえか！
「いや～それにしても」
「無視！？」

「君、ぶつかるまでパンを加えてたよね？」
「そうだが？それがどうか？」
ちなみにパンはぶつかった際車道に落ちた。
「いや～パンを加えて曲がり角で女子とぶつかるとか、まるでギャルゲーみたいだなーと」
「いやいやいや！あれたまたま！遅刻しそうだったから！」
「そういうシチュになるとこでもう…ね？」
「ぐっ…分かるからいやだ…」
「あれ？君ギャルゲーの内容分かるの？もしかして…」
そういいながら少し距離をとる泉。
「いや、やったことはないけど漫画とかの知識から…って普通女子がギャルゲーの内容知ってる方がおかしいだろ！」
「まあまあ、よいではないか♪」
「よくねえよ！」
知り合ったばっかの女子といきなりこんな言い合いをしてるのはおかしい気がしたがそんな言い合いをしているとバスは学校についた。
続く

第2話　青い少女、その名はこなた（後書き）

こなたのキャラを表しにくい…
作者の文章力のなさを恨みます…
次回は風間のプロフィールを書きたいな～と思います。
ちなみに、裏設定はあんまないので。
ではでは～ノシ

第2・5話　風間ひろき　紹介（前書き）

前回の予定どおり風間ひろきの紹介をします。

第2・5話　風間ひろき　紹介

風間(かざま)ひろき
性別　男
年齢　１５歳
身長　１５３ｃｍ
体重　４３ｋｇ
家族構成　父　母　姉
一人称　俺（女装時は僕）
好きな食べ物　チョコレート（本人いわく「いくら食べても体重が増えない」とのこと。ゆえにかがみからうらやましがられてる。）
嫌いな食べもの　辛いもの
成績　上の中
得意科目　世界史

特徴：性格は一般的な男子だが身長が中学二年の時から１ｍｍたりとも変わっていない。
女性的な顔立ちをしている。週２回はナンパされる。
それを撃退するため習っていた空手のおかげでケンカの腕前はそこそこ。ちなみに空手自体は半年で辞めた。
たびたび親や姉に女装させられてたため女装に対する羞恥心はほぼ０。また、女装時は一人称が変わる。
家族はひろきが中３のときから世界を飛び回っているため家にはほぼいない。（一年に１回帰ってくるか来ないかというランク）

第2・5話　風間ひろき　紹介（後書き）

以上です。特別な裏設定なんてありません。
ぷろろ～ぐ？でなんか思わせぶりなこと書きましたが、すいません。
思いつきませんでした。
どうやら僕には悲しい過去をキャラに背負わせたくないみたいです。
では次回いつになるかわかりませんがまた次回。会いましょう。

第3話　入学式～クラス分け（前書き）

・・・やっと・・・ネタが浮かんだ・…
遅すぎだろ・・・・自分・・・・ＯＴＺ
というわけで、ようやく更新です。
・・・見てる人あんまりいなさそうですが…
あとサブタイのセンスがない・・・

第3話　入学式～クラス分け

―陵桜学園、入学式後―
「なんとか・・・・間に合った・・・初日からなんでこんなに疲れるんだよ…」
入学式が終わった直後、俺は盛大なため息をついた。
理由は単純。バスを降りた後も泉が「まだ足痛いからおんぶしてって♪」
などというものだから俺は罪悪感も手伝って体育館まで泉をおんぶすることになった。
・・・なんであんなに嬉しそうだったんだ？謎だ…しかも、周りの人はなんかひそひそ話してたし…最悪だ…初日からいろんな意味で有名人じゃないかよ…
そんなことを考えてると
「よぉひろき！、お前また初日から有名人になっちまってるぜ」
「うるさい」
「今度は何したんだ？どんな子にフラグ建てた？なぁ、教えろよ」
「うるさいっていってるんだよ！ゆうき！」
さっきから話しかけてきてるのは前城ゆうき。俺の小学校時代からの友人だ。
ひとことで言うと、ギャルゲ好きのオタクのお調子者だ
・・・俺がギャルゲの内容知ってたりするのは8割こいつのせいだ…
「ったくうるさいなんていうなよ～・・・で？結局だれなんだ？かわいい子か？」
「いい加減にしないとその口ホッチキスでふさぐぞ」
「ゲッ…それはヤダなぁ…じゃあさ！どんな子だったかだけ教えてくれよ！な？」
・・・うぜえ…なんでこんな奴と友達なのかいまだにわからん…
そんなことを思ってるとクラス分けの表の前についた。

「なぁ、また賭けないか？俺は同じクラスに１００円だ。ひろきは？」
「賭けん。どうせ結果はわかりきってるからな」
「ちぇ～つまんねえの」
そんなことをいいながら表を見てみる…
１組…違う
２組…違う
３組…あった
「俺は３組か…どうせお前も３組だろ？」
「だな。じゃあ行くか」
「そうだな」
―３組―
「…はぁ～、終わった～、長かった～」
「だな。さて…じゃあナンパ行こうぜ！ナンパ！」
「いきなり何言いだすんだ…」
「だってこれで俺たち高校生だぜ？ナンパの一つでもしなきゃ損ってもんだろ？」
「なにを損するんだよ…お前ひとりで行け…」
そんなことを話しながら帰り支度をしてると…
「あ、ひろき君！朝はありがとね～！」
「・・・・・・・・・・・・え？」
なにか聞いたことのある声に下を見てみる。すると…
「やっほ～」
・・・・あのちっこい高校生、泉こなたがいた
「おい！ひろき！朝はありがとってまさかこの子にフラグ建てたのか！？」
「うるさい。黙れ、プレステの１０が出るまで」
「生涯しゃべれないじゃねえか！！！」
「ねえひろき君、この人誰？なんか面白い人だね」
「はい！私は前城ゆうきといいます！ひろきとは親友です！以後お

見知りおきを。」
「ただのバカだ。俺とはなんの関係もない」
いきなり丁寧語になって挨拶をするゆうきをみずに、俺はこなたにそういった
「おい！ひどくないか！？それ！」
「つか、泉、お前同じクラスだったのかよ…」
「うん、そうだよ♪これから1年よろしくね～♪」
「…はぁ…疲れそうだな…」
口ではそんなことをいったが、俺は内心、
―退屈せずに済みそうだ―
そう、思ってた。

第3話　入学式～クラス分け（後書き）

・・・なんか、文章書く腕が落ちてるな～…
次回は何書こうか…
ネタをください…
感想もください…
お願いです…

第3・5話　前城ゆうき　紹介（前書き）

ネタがないのでまずゆうきの紹介です。

・・・ネタをください・・・誰か…

第３・５話　前城ゆうき　紹介

前城（まえしろ）ゆうき
性別　男
年齢　１５歳
身長　１６８ｃｍ
体重　４５ｋｇ
家族構成　父　母　兄
一人称　俺
好きな食べ物　焼肉
嫌いな食べ物　フルーツ
成績　中の下
得意科目　数学？

特徴：ギャルゲ好きでオタクのお調子者。
ひろきと違い身長も伸びており顔もそこそこなイケメンなので黙っていればかなりもてる。
ひろきと同時期に空手を始め、今もなお続けているので腕はかなりのもの。
持論が「オタク趣味は恥ずかしがったら負け！」と豪語するほどのオタク。
ギャルゲーは発売日に買うタイプ。ただラブプラスだけは嫌っている。
お調子者ではあるが、真剣な場面では一切ふざけない。
よく皆に「やさしい」などと言われるが本人はなんでやさしいといわれるかわかっていない。
ネトゲもしておりネカマ。
ＨＮは「祐花」
家ではよく兄にいじられている。

第3・5話　前城ゆうき　紹介（後書き）

以上です。
・・・ぶっちゃけ、ゆうきからイケメンとギャルゲと空手を抜くと作者になります。
前城ゆうきという名前も作者が中2の時に考えた偽名です。
他にもどんどんオリジナルキャラを出していこうと思ってます。
では

第４話　ナンパに行かなきゃ…（前書き）

ネタ…ネタァ…ネタをください…
というわけで４話です

第４話　ナンパに行かなきゃ…

（なんで…こんなことに…）
僕はこっそり心の中でため息を吐く。
なぜなら…

今、俺、風間ひろきはナンパをされていた
…死にてぇ…
某死にたがりの主人公のようなことを考えながら、どうしようか迷っていた…
そもそも、ゆうきがナンパしようなんて言わなければ…
そうすれば…こんなことにならなかったのに…

回想モード
「なぁ！だからナンパしようぜって！」
ゆうきがしつこくそう言ってきていた
これで２０回は言ってるだろこれ…
しかも…
「いいじゃんいいじゃん、私もさんせいだよ～」
泉までそんなことを言っていた
「いやだっつってんだろ？なんでわざわざナンパをしにゃならん」
「だからさ～もう高校生だろ？ナンパくらいしないと」
「だったらお前ひとりでやれ」
「いやいや、こういうのは人数が多い方が成功しやすいらしいんだって」
どこ情報だそれは
「とにかく！嫌なもんは嫌なんだよ！ナンパなんて…あんなもの…」
「ふ～ん…そんな風につれない態度とりつづけるなら俺にも考えがある」

「なんだよ」
「ふっふっふ…泉さんにこの写真を見せる」
そういって携帯を操作し、俺に見せたのは

俺の、女装写真だった

「なっ！？お、お前その写真どこで…」
「お前のお姉さんにもらった」
…姉きめ…
「ほらほら、お前が行くって言わないならこれ、見せちゃうぞ？」
「…わかったよ」
「おぉ！さっすが心の友だ！」
「うっさい、行くなら早くいくぞ」
「ほ～い、泉さん、行きましょうか」
「いったいどんな脅迫がなされたのかわからないけどおkおk～」
こうして、俺たちはナンパしに行くことになった

…後に起こることは…ナンパをされた（・・・）だけなのだが…
続く

第４話　ナンパに行かなきゃ…（後書き）

疲れた…パロディネタって意外に出せないもんなんですね…
あと、作者はナンパなどしたことないです
チキンですし

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9135v/

らき☆すた～忘れられない青春～

2011年12月11日17時53分発行